

[さとうきび]

1 作付の概要

さとうきびの 2014/2015 年期中における鹿児島県の収穫面積は 10,138ha で、前年に比べて 766ha の増加となった。作型構成は、夏植えが 17.6%、春植えが 21.6%、株出しが 60.8%となっている。夏植えが昨年の 12%から増加している。品種構成では、NiF8 が全体の 51.1%を占め、次に Ni23 が 18.8%となっており普及が進んでいる。Ni22 は 16.3%である。

島ごとに見ると、種子島では株出しが 70.9%と多く、品種は NiF8 が 79.4%、Ni22 が 16.2%となっている。奄美大島では、株出しが 64.2%であり、Ni22 が 43.2%、Ni17 が 20.5%となっている。喜界島では、株出しが 59.6%であり、NiF8 が 42.3%、Ni23 が 28.5%、Ni22 が 7.2%となっている。徳之島では、株出しが 56.3%であり、NiF8 が 48.6%、Ni23 が 30.3%、Ni22 が 7.8%となっている。沖永良部島では、株出しが 50.1%であり、NiF8 が 44.9%、Ni22 が 39.9%となっている。与論島では、株出しが 70.0%であり、Ni23 が 65.6%を占めている。

沖縄県の収穫面積は 12,736ha で、前年より 201ha 増加した。沖縄県での作型構成は、夏植えが 48%、春植えが 15%、株出しが 48%となっている。品種構成では、Ni27 が 31%と最も多く、Ni21 が 13%、NiF8 が 8%、Ni15 が 7%となった。Ni27 が急速に普及している。

地域別では、沖縄地域（周辺離島も含む）では、株出しが 68.1%と多く、品種は Ni21 が 16.9%を占め、次に NiF8 や Ni15 となっている。宮古地域は株出しが 36.6%と増加している。また Ni27 が 67.4%を占めるまで増加し、Ni21 がそれに続く。八重山地域では株出しが 30.8%であり、Ni15 の 25.7%、次に Ni27 の 25.4%となっており、Ni27 が増えている。

2 作柄の状況

鹿児島県では、5 月以降の低温・日照不足の影響や度重なる台風被害により単収は 4.639t/10a と平年比 79%、平均糖度も 12.78 度と収量・品質ともに厳しい状況であった。

沖縄県では、日照不足や台風による被害があり、単収は 5.406t/10a と昨年からの低い水準を脱してはいない。糖度は平年並みの 14.3 度であった。

2014/2015年期の鹿児島、沖縄両県のサトウキビ生産実績

県別	年次	農家戸数 (戸)	収穫面積 (ha)	単収 (kg/10a)	収穫量 (t)	甘蔗糖度 (%)	産糖量* (t)	歩留り** (%)
鹿児島	'14/15	8,296	10,138	4,639	470,295	12.78	52,627	11.18
	対前年比	98.1	108.2	85.6	92.6	91.5	86.1	92.9
沖縄	'14/15	15,408	12,736	5,406	688,504	14.3	83,163	11.99
	対前年比	99.0	101.6	99.2	100.8	99.3	101.8	101.5
両県合計	'14/15	23,704	22,874	10,045	1,158,799	27.1	135,790	23.2
	対前年比	98.7	104.4	92.4	97.3	95.5	95.1	96.6

*: 含蜜糖を含む生産量

** : 分蜜糖のみの歩留り

平成26/27年期 さとうきび及びび甘しゃ糖生産実績(鹿児島県、沖縄県)より抜粋、編集。